

本授業の主張点

トリックアート鑑賞会を通して、造形的なよさを感じ取っていきます。また、「学びのアルバム」を活用しながら、トリックアート制作で身に付けた力を相互評価・相互分析していくことで、学びの高まりを共有したり自分が積み重ねてきた学びを客観視したりしていけるよう導きます。

1 題材名 とびだせ！アートの世界 ～トリックアートへようこそ～

2 題材の目標

校内に仕掛けるトリックアート制作を通して、場所の特徴を基に発想を広げ、見る人を驚かせたり楽しませたりする効果を考えながら表現する楽しさを味わう。

3 評価規準【学力デザイン レベル3より】

- 様々なトリックアートを体験することで、そのおもしろさに興味をもち、トリックアート制作に意欲的に取り組もうとする。 【造形への関心・意欲・態度】
- 自分が選んだ場所の特徴を基にトリックアートの発想を広げ、見る人を驚かせたり楽しませたりする効果を出すために形や色、材料の組み合わせを構想することができる。【発想や構想の能力】
- トリックアートの効果がねらい通りになるように、場の特徴を生かして、形や色、材料の組み合わせを工夫することができる。 【創造的な技能】
- 「場所をうまく活用しているか」「ねらっている効果が表現できているか」という観点でそれぞれのトリックアートの造形的なよさを感じ取ることができる。 【鑑賞の能力】

4 題材設定の理由

(1) 児童の実態

本学級の児童は、意欲的に造形活動に取り組むことができる。特に本題材に関連が深い「おもしろピクトグラムをつくろう」では、形や色をもつイメージやそれらの組み合わせがもたらす効果を考えることができた。また、伝えたい情報をいかに単純化したデザインで表現するかを判断することができた。校内に設置し、見る人を意識した表現を展開する点でも、本題材につながる経験を重ねている。

本研究の視点である「学びのアルバム」については、表現の変化をたどるのに有効であることや、これまでの学びを振り返る時に役立つことを感じている。自己評価・自己分析では、身に付けた5つの力を意識して記述できるようになってきている。「おもしろピクトグラム」制作後の鑑賞交流では、技能面だけでなく、完成するまでにどのような思考・判断をしてきたのか「学びのアルバム」に整理し、それを相互評価・相互分析することができるようになりつつあった。本題材では共同制作に取り組むため、グループ内での試行錯誤の過程をより間近でみながら、互いの造形的なよさを感じ取ることができるだろうと期待する。

(2) 題材の意義

トリックアートとは、人間の目の錯覚を利用して「平面なのに立体的に見える」「見る角度により変化する」「大きさや形、色が実際とは違って見える」等、子どもから大人まで楽しめるアートである。

本題材は、「校内にトリックアートを仕掛ける」というテーマのもと、見る人に与える効果を意識したり、場の特徴を生かして発想を広げたりしながら活動を展開することになる。このことは、発想したことを視覚的な美しさやおもしろさから確かめたり、そこから表現の可能性を見付けたりするこの時期の児童の特徴に応じたものである。また、学力デザインレベル3「材料や場所などに進んでかかわり合い、その特徴を基に発想し想像力を働かせてつくることのできる」のねらいそのものである。

ダイナミックな造形を共同でつくり出すことになるので、グループ内で互いの発想や表現のよさを認めながら、高め合うことが期待できる。一人一人の発想や技能等が友達との交流によって一層発揮できるよう配慮したい。そうすることで、グループ、学級、学年で大きな造形活動を成し遂げた達成感を味わうことができると考える。

(3) 指導上の着眼点(視点の具体化の側面から)

児童自身が学びの高まりを実感できるように「学びのアルバム」を活用させながら、自己評価・自己分析をさせる。その際、「学びのアルバム」も作品の一つという意識で作りに上げて欲しいため、ワークシートの型を与えず、表現途中の過程をまとめさせたい。

さらに、個人の学びの高まりを互いに共有し、客観的にとらえることができるように相互評価・相互分析をする場を設定していく。以下、その関連場面を示す。

《感じる／見つめる段階》

見る角度によって見え方が異なる作品、平面なのに立体的に見える作品等様々なトリックアートを紹介し、その造形的なよさを体験できるような導入を仕組む。その上で、課外の時間も含めて校内のどこにどんなトリックアートを仕掛けるか「学びのアルバム」にアイデアを記述させ、後の自己評価・自己分析をする場面につなげる。

《想う段階》

構想を伝え合うアイデア交流会を仕組み、アイデアが一致するメンバーでグループを編成する。その際、個人が制作したトリックアートをグループで集合させるパターンと構想段階からグループで進めていくパターンが考えられる。「学びのアルバム」に記述したアイデアスケッチから個人の思いを読み取り、それらが活かされるようなグループ編成を支援していきたい。

《表す段階》

制作途中のトリックアートを随時写真に撮り、その過程を「学びのアルバム」に残させることで、児童自身がどのように思考・判断してきたかをたどれるようにする。

試作やパーツができたところでグループ内の鑑賞交流を促進し、期待する効果に合っているかどうかを相互評価・相互分析するよう促す。その後、校内設置に至るまでの記録も写真や図、言葉で残しておくよう伝える。

《鑑賞する／活用する段階》

トリックアート制作を通して身に付けた力を振り返らせ、グループやクラス全体で相互評価・相互分析する場を設定する。表現の途中で思考・判断した過程を話題にできるように、「学びのアルバム」を活用するよう促す。

5 指導計画(全8時間+課外)

段階	時	主な学習活動 (太枠：視点)	指導上の留意点(○) 重視する評価規準(◆)	評価
感じる ／ 見つめる ／ 想う	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">トリックアートってなあに? ～トリックアートを体験しよう～</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 錯視体験をしながら、トリックアートを鑑賞する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図地反転図形 ・ 奥行の反転 ・ 不可能図形 ・ さかさまの絵 ・ 大きさの錯覚 ・ 3D 等 </div> ○ 本題材の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関心を高めるために、「トリックアート展」の画像や絵本等を紹介する。 ○ 目の錯覚を利用して、見る人を驚かせたり楽しませたりする効果があることを実感できるように、体験型鑑賞会を仕組む。 ◆ 様々なトリックアートを鑑賞し、その可能性に興味をもち始めている。 	関
	2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">とびだせ！アートの世界 ～附属小学校にトリックアートを仕掛けよう～</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ トリックアートの構想を練る。 ・ 仕掛けたい場所を選択するために校内を見て回り、写真に残す。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block;"> <p>【「学びのアルバム」活用】 制作パターンをヒントに、アイデアスケッチを描く。</p> </div> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前題材のピクトグラム制作と重ねながら、見る人を驚かせたり楽しませたりするトリックアートを校内に仕掛けることを伝える。 ○ 場所の特徴を基に発想を広げることができるように、校内の写真为例に示し、トリックアートの制作パターンを紹介する。 	
課外		<ul style="list-style-type: none"> ○ 身近なトリックアートに関心を寄せ、アイデアを膨らませる。 ・ 設置場所 ・ ねらう効果 ・ 形や色の工夫 ・ 材料や用具 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○ トリックアートのアイデアが広がるように、期間を設け、随時相談にのる。 ◆ 見つけたトリックアートやアイデアを「学びのアルバム」に積極的に記述している。 	関

想 う	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ アイデア交流会をし、互いの構想のよさを認め合う。 ○ 共同制作グループをつくる。 <p>【「学びのアルバム」活用】 アイデアスケッチを基に、構想を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループでアイデアスケッチを再考しながら、構想を練る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内のどこに設置するのか、どんな効果をねらうのかを明確にしなが、アイデアスケッチを基に構想を交流する場を設ける。 ○ 事前に「学びのアルバム」に記述したアイデアスケッチから個人の思いを把握しておき、それらが活かされるようグループづくりを支援する。 ◆ 設置する場所を決め、トリックアートの形や色、材料や用具を構想することができる。 	発
表 す	<p>4 5 6</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 仕掛ける場所の特徴を基にして、トリックアートの試作品やパーツを制作する。 (個人制作集合型の共同制作) ・窓ガラスの重なりを利用した絵 ・長さや大きさの錯覚を利用した絵 ・さかさまの絵 (構想段階スタート型の共同制作) ・凶地反転階段アート ・奥行の反転 ・フェンスアート ・3面立体アート 等 <p>【鑑賞交流（相互評価）】 ねらっている効果と形や色、材料の組み合わせ、場の特徴が合っているかどうか評価し合う。</p> <p>7</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ トリックアートを完成させ、見どころを出し合う。 ○ 自己評価・自己分析をする。 <p>【「学びのアルバム」活用】 制作途中の写真やスケッチを基に振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 仕掛けるトリックアートによって必要になるであろう材料、用具を予測し、「材料コーナー」に準備しておく。 (段ボール、プラスチックボード、厚紙、色画用紙、アクリル絵の具、カラーテープ、布テープ、階段アートフィルム 等) ○ 制作のヒントになるように、体験型鑑賞会で紹介した作品やトリックアートの仕組みを解説した本を「ヒントコーナー」に設置する。 ○ 互いのトリックアートの造形的なよさを認め合い、完成までの見通しをもつことができるように、随時制作途中のトリックアートを鑑賞交流する場を設ける。 ◆ トリックアートの効果がねらい通りになるように、場の特徴を生かして、形や色、材料の組み合わせを工夫することができる。 ○ 思考・判断の過程が分かるように写真やスケッチを残しておいた「学びのアルバム」を振り返りながら、自分が身に付けたと思う力を付箋に書き込むよう促す。 	技
鑑 賞 す る ／ 活 用 す る	<p>8 (本時)</p> <p>とびだせ！アートの世界</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自己評価・自己分析を基にグループ内で互いが身に付けた力を相互評価・相互分析する。 <p>【「学びのアルバム」活用】 これまでの思考・判断の過程をたどる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「トリックアート鑑賞会」を通して、相互評価・相互分析をする。 <p>【鑑賞交流（相互評価・相互分析）】 互いのトリックアートの造形的なよさを認め合ったり、自分たちがこの題材を通して身に付けたと思う力について出し合ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分が制作したトリックアートの造形的なよさや自己の学びの高まりを改めて振り返る。 	<p>～附属小学校まるごとトリックアート～</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 相互評価・相互分析をグループ内と全体で行えるように次のような流れを示す。 (グループ内で) ① トリックアートの見どころを確認する。 ② 自己評価・自己分析を基にグループで身に付けた力を整理する。 (「トリックアート鑑賞会」で) ③ トリックアートの見どころを紹介し、身に付けたと思う力について発表する。 ④ 「場所をうまく活用しているか」「ねらっている効果が表現できているか」という観点で造形的なよさを出し合う。 ○ 身に付けた力を共有したり、客観的にとらえたりできるように、相互評価・相互分析の結果をいくつか全体で紹介する。 ◆ 「場所をうまく活用しているか」「ねらっている効果が表現できているか」という観点でそれぞれの造形的なよさを感じ取ることができ、自分が身に付けた力を改めて確かめることができる。 	鑑
課 外	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内にトリックアートを設置し、学年で「トリックアート発表会」を行ったり、全校児童や来校者にアンケートをとったりして他者評価を得る。 		

6 本時の指導(本時 8 / 8)

(1) 目標

「トリックアート鑑賞会」を通して、「場所をうまく活用しているか」「ねらっている効果が表現できているか」という観点でそれぞれの造形的なよさを感じ取ることができ、自分が身に付けた力を改めて確かめることができる。

【鑑賞の能力】

(2) 展開

太枠：視点

学 習 活 動	教師の働きかけ (○) と形成的評価 (◆)								
1 前時を振り返り、本時のめあてを確認する。	○ トリックアート完成までの過程をたどりながら身に付けたことを振り返るねらいを伝える。								
<p>テーマ： とび出せ！アートの世界 ～附属小学校まるごとトリックアート～</p> <p>めあて： 「トリックアート鑑賞会」を通して、互いの造形的なよさ(場の特徴の生かし方, 見る人への効果をねらった形や色, 材料の組み合わせ等)を感じ取り, 自分自身が身に付けた力を確かめよう。</p>									
<p>2 グループ内で「トリックアート鑑賞会」に向けた振り返りをする。</p> <p>(1) 自分たちが制作したトリックアートの見どころや紹介する内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置場所 ・見る人への効果 ・形や色, 材料へのこだわり ・完成までの過程(アイデアの変遷) 等 <p>(2) 自己評価・自己分析を基に自分たちが身に付けた力を分類・整理する。</p>	<p>○ 分類・整理の手順を次のように提示する。</p> <p>① 付箋に記述しておいた自己評価・自己分析の結果(身に付けたあるいは高まってきたと思う力)を説明しながらグループの台紙に貼る。</p> <p>② グループ全員が発表し終わったら, 付箋を「5, 6年生で身に付けたい力」に照らし合わせながら分類・整理していく。</p> <p>◆ グループ内で互いが身に付けた力を分類・整理できているか。 【発言, 行動観察】</p> <p>A 自分と友達が身に付けた力を比較しながら, 分類・整理する考え(キーワード)を複数出すことができている。</p> <p>B 友達の発言を聞きながら, 自分と重ねて身に付けた力を整理することができている。</p> <p>→ 整理する際にキーワードとなることはないかたずねることで分類を意識づける。</p> <p>C 発言を聞きながら, 自分と重ねて身に付けた力を整理することが難しい。</p> <p>→ 分類・整理する際のキーワードに印を入れて, 似たような発言を一緒に見つける。</p>								
<p>3 「トリックアート鑑賞会」を通して, 相互評価・相互分析をする。</p> <p>【鑑賞会グループ】</p>	<p>○ 11 グループのトリックアートを効率よく鑑賞できるように, 4つのコーナーに分けて発表グループと鑑賞グループの入れ替わりを3回行う。また, 以下のような流れを確認する。</p> <p>① トリックアートの実物や画像と「学びのアルバム」を見せながら, トリックアートの紹介をする。</p> <p>② 自分たちのグループが身に付けたと思う力を伝える。</p> <p>③ ①②の発表を聞いて, 「場所をうまく活用しているか」「ねらっている効果が表現できているか」という観点を基に造形的なよさを伝えたり, 身に付けた力について相互評価・相互分析したりする。</p> <p>○ 4カ所同時に行われる鑑賞会が活性化するように, 発表グループの思考・判断の過程を引き出すような声掛けを行う。また, 他のグループのトリックアートの造形的なよさを複数の観点で活発に発言している児童をほめる。</p> <p>○ 他のグループのトリックアートの造形的なよさを見つけることが難しい児童に対しては, 「学びのアルバム」を用いて, 形や色の組み合わせのパターンを思い出させ, そこから一緒によさを見つける。</p>								
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">A</td> <td>階段アート→床アート→階段側面アート</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td>フェンスアート→扉アート→錯視アート</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">C</td> <td>柱アート→3面アート→窓ガラスアート</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">D</td> <td>まさかさかさま→立体図形</td> </tr> </table>	A	階段アート→床アート→階段側面アート	B	フェンスアート→扉アート→錯視アート	C	柱アート→3面アート→窓ガラスアート	D	まさかさかさま→立体図形	
A	階段アート→床アート→階段側面アート								
B	フェンスアート→扉アート→錯視アート								
C	柱アート→3面アート→窓ガラスアート								
D	まさかさかさま→立体図形								
<p>※ABグループは画像で, CDグループは実物で発表する予定</p>									
<p>【期待する児童の姿】</p> <div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>平面の床に奥行のある穴を表現しました。ここに至るまでに, 材料の組み合わせを試行錯誤しました。</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>ぼくたちは, トリックアート制作を通して, 身の回りの様々な造形物にトリックがあるように見えて, その理由まで考えるようになりました。もの見方が広がったと思います。</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>確かに, 床に水槽があるように見えます。場所の選択がいいですね。</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>私も何気なく見ていた階段や床が違って見えるようになりました。</p> </div> </div>									
<p>4 改めて自分が制作したトリックアートの造形的なよさや自己の学びの高まりを振り返り, 今後の見通しをもつ。</p>	<p>○ 互いに身に付けた力を共有したり, 自己の学びを客観的にとらえたりすることができるように, 再度自己評価・自己分析した結果を見直すよう促す。</p> <p>○ 今後全てのトリックアートを設置して, 学年で「トリックアート発表会」を行い, 全校にアンケート協力を呼びかけ, 他者評価を得ることを伝える。</p>								